

研究発表もうしこみフォーム

氏名：呉 美玲（ウ メイリン）

氏名のローマ字表記：WU MEILING

所属：宇都宮大学 地域創生科学研究科先端融合科学専攻（博士後期課程）

専門分野：教育学、言語学、モンゴル語

発表のタイトル：内モンゴル自治区東部地域におけるモンゴル語教育の変容と使用現状-通遼市ホルチン区を事例として

発表要旨（600字～800字程度）：

内モンゴル自治区は1980年代から始まった「改革開放」政策と市場経済導入の影響より、そして大量の漢民族が内モンゴル自治区に移住してきて、モンゴル語は内モンゴル自治区の社会では生活面ですら適応はさらに困難になっている現状である。「漢語が優位」（中国語）であるという考え方これまでのモンゴル人の言語意識を変化させ、教育面では「漢語を重視すれば、就職しやすい」、「漢語を選択すれば中国社会にスムーズに入っていける、モンゴル語を選択すればモンゴル言語・文化を維持できるが、職業などで社会的地位を獲得することが難しくなる。」という考え方を持つ人もだんだん増えてきている。本研究は東部の内モンゴルにおける文化環境及び言語生活の変容と複雑な言語環境における東部の内モンゴルを中心とし、少数民族の言語教育及び維持について、現実の問題を明らかにして、2020年の9月から少数民族の言語教育は「新政策」をとるようになって、こういった「新政策」から東部の内モンゴルにおけるモンゴル語使用状況を明らかにする。

文献調査から、過去の状況から現在の実状を述べると、モンゴル人は遊牧生活から都市生活に移行してから生活に大きな変化が起きた。昔少数民族の多くは居住地域が非常に広がった、しかしモンゴル民族の定住、都市への移動により民族学校が集中・統合されてきた。モンゴル民族の学校に通っていた生徒たちの多くは、従来遊牧地域で育てられたが、漢民族の教科書から翻訳された内容は生徒たちの生活の中にもないものが多い。また少数民族への「民考汉」（ミンカオハン）制度から見ると、現在少数民族の学生は「民考汉」の学生が急激に増え始めている。

本報告まず、内モンゴル自治区ホルチン区のモンゴル人の言語生活とその社会的背景を分析する。次に、ホルチン区におけるモンゴル族の教育現状を報告する。最後に、ホルチン区による言語、文化の継承や変容と教育を明らかにする。